

アメリカの幼児たちが漢字を学習する意味

アメリカの幼児たちが、こうして英語を漢字で学習することによって、幼児たちの知能が著しく向上するだろうということは、疑いありません。私はそう確信しています。しかし、それが科学的な実態調査によって裏づけられ、世間の人々に確認されるまでには、まだまだかなりの年月を必要とするでしょう。

それはともあれ、アメリカの幼児たちでも、三歳で、麒麟きりんや蜘蛛くもなどという漢字でも十分に覚えることができる、ということだけは確かな事実です。この事実は、わが国の幼児漢字教育に大きな刺戟を与えてくれるに違いありません。そう思って、私は嬉しくてたまらなくなりました。

というのは、私が幼児の漢字教育を主張し始めて、今年で十年になります。その十年間に、私の主張に共鳴して漢字教育を実践してくれた幼稚園、保育園は、全国でわずかに二、三百。園児数にして五、六万人に過ぎません。大方は、「幼児に漢字を読ませるとは乱暴だ。幼児がかわいそうだ」と言って反対し、私に対して激しい敵意さえ示します。

しかし、そういう反対は、私の主張を冷静に受けとめず、ただ感情的

に排斥するものであって、もう少し理性的になって私の主張に耳を傾けてほしいと思います。素直に耳を傾けて下さるならば、幼児の漢字教育は、少しも乱暴でもかわいそうなことでもないこと、いや、そういう教育を受けないで幼児期を過ごす幼児の方がかわいそうだ、ということが解ってくれるはずです。

中学生で学習についていけない者が半分以上ある、と言われていきます。その原因の大半は、漢字力がないため、教科書が読めない、理解できない、ということにあるようです。漢字学習の臨界期をはずして、学校で漢字学習に苦しみ、その上漢字力もつかないでは、その方がかわいそうではありませんか。